

平荘町にある小学校

狂言発表会を行いました (NO.1)

12月7日(水)に、平之荘神社で、第22回狂言発表会を行いました。平荘小学校の子どもたちや職員はもとより、地域の皆様に支えていただき実施することができました。



屋外での発表会のため、天気も気になっていましたが、とてもよい天気でした。

狂言発表会当日の朝、5年生が6年生の教室にメッセージを届けました。『6年生のみなさん、狂言発表会がんばってください!!』と。学校挙げて6年生を応援しています。



地域の皆様

ご協力をありがとうございます

狂言発表会実施に向けて、地域の皆様には、年間を通じてご協力をいただいております。

特に、平荘狂言教室後援会の皆様には、定期的に本発表会に向けての会を開催しご尽力をいただいております。発表会当日も、早朝よりイスや机等の運搬並びに会場設営、そして、発表会のスムーズな運営にご協力いただきました。本当にありがとうございました。



狂言発表会を終えて思うこと

コロナ禍の中でしたが、第22回狂言発表会を、12月7日(水)に、平之荘神社で無事開催することができました。

6年生の子どもたちにとっても、『晴れの日』となりました。一人一人が自分の持てる力を最大限に発揮し輝いていました。発表会後も達成感に満ち溢れ、清々しい表情だったことを大変うれしく思います。6年生の子どもたちにとって、貴重な経験ができました。これから先の人生においても、この経験を生かしてくれることと信じております。

そして、このように、6年生が達成感を味わうことができたのは、6年生一人一人の努力はもちろんのこと、多くの方々への支えがあったからこそと実感しております。

当日、6年生全員が発表会に参加できたことも大変嬉しいことです。保護者の皆様のご協力のおかげです。そして、本格的な能舞台で狂言を演じることができたのは、平之荘神社の皆様のご厚意によるものです。22年間変わらず、平荘小学校の狂言学習をご指導していただき、支えてくださった山口耕道先生の存在は大変大きいです。同時に、地域の皆様の温かい支えに大変感謝いたします。

22年前、平荘小学校で狂言発表会をしたいと提案してくださった方(当時の担任の先生と校長先生)、そして、能舞台を使っていただいていたよと言ってくださった方(平之荘神社の皆様)、そして、狂言を指導してくださった方(山口先生)、そして、第1回目から今まで揺るぎなく平荘小学校の狂言をつないできた人達、頑張っている子どもたち(学校)を支えてくださる地域の方々がいってくださったからこそ、今があるのだと実感しています。それぞれの存在が欠けることなく、今まで繋いできていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

12月8日(木)には、狂言発表会の感想も、地域から学校に寄せられました。『狂言発表会を通じて、地域のつながりが一つになっていることがわかります。とてもいい狂言発表会でした。』と。学校と地域が一体となって、地域を愛し仲間と協力しながら自分の力を伸長する子どもたちの育成に尽力できることをとてもうれしく思います。地域の皆様に大切に育てていただいている子どもたちは、本当に幸せです。

6年生の思いが観客に届きました！

狂言発表会では、6年生が日頃の成果を発揮し最高の演技を披露しました。その支えになったのは、観客です。普段の狂言の練習の中で、山口耕道先生が常に言葉にされていたことに、『観客を意識して演じましょう。観客は正直です。観客を巻き込みましょう。』等、観客（相手）を大切に演じることを教えていただきました。

観客は演じ手の思いをキャッチし、ストレートに演じ手に感じたことを返してくれました（反応してくれました）。狂言のおもしろさをセリフと動きで観客に伝えた6年生です。目線や指先まで神経を注いで精一杯の演技をした成果が発表会で表れました。



1～5年生は、『附子』や『柿山伏』のあらすじを担当の先生から前もって教えてもらい、その知識でもって鑑賞しました。観客は、6年生のメッセージを素直に受け取って反応を返してくれていました。楽しい発表会になったのは、観客の反応のおかげです。6年生は観客を巻き込み、演じ手と観客が一つになった素晴らしい狂言発表会となりました。